

2015年2月までのその他の活動 東エルサレムYMCA交流委員会開催



今年度2回目の東エルサレムYMCA交流委員会が、12月11日、神田のパレスチナ料理店アルミナにおいて開催されました。美味しいパレスチナ料理に舌鼓を打ちながら、10月にパレスチナオリブ収穫プログラムに参加した長尾

有起さんからプログラム参加報告をうかがったほか、オリブ平和映画祭等、今後の活動計画についての話し合いが持たれました。パレスチナからは入植者による暴力の拡大等のニュースが伝えられていますが、希望を失わずに活動を続けている現地の仲間たちのことを忘れることなく、新しい年も支援と連帯のための活動を続けていくことを確認しました。

横浜YMCA日本語スピーチコンテスト



2月1日、横浜ワイズメンズクラブと横浜YMCA学院専門学校との共催により行われた日本語スピーチコンテストにおいて、本会YMCA東京日本語学校から出場したサチニさん(スリランカ)が優秀賞を受賞しました。日本で頻繁

に起きる電車の「人身事故」を取り上げたサチニさんのスピーチは、審査員はじめ聴衆の皆さんからたいへん高い評価を受けました。

子どもクリスマス



12月20日、毎年恒例の子どもクリスマスが開催されました。リーダーたちが子どもたちのために準備してくれたプログラムは、今年も盛りだくさんの内容でした。ジングルベルを日本語・韓国語・中国語で歌ったり、クリスマ

スのお話を聞いたり、折り紙でサンタのカードを作ったりして、子どもたちはみんなとても夢中になっていました。リーダーたちによる迫力いっぱいサドルノリ演奏には、小さな子どもたちも真剣に耳を傾けていました。今年いちばん盛り上がったのは、ゲーム大会の借り物競争でした。ホテルのフロントスタッフのお兄さんたちも、突然訪ねて行った子どもたちにネクタイやメガネを貸してくれました。最後にはサンタさんが登場。みんな今年も素敵なプレゼントをもらって、よかったですね。

生野区民クリスマス



生野地域活動協議会(事務局YMCA)主催の「第43回生野区民クリスマス」が12月6日(土)に小路小学校でおこなわれました。地域の小学生を中心に出演者あわせて200名が集まりました。オープニングは総勢

40名のプール学院のプラスバンド部による「アナと雪の女王」「クリスマスメドレー」からはじまり、生野朝鮮初級学校の舞踊、マジック、ゲーム、チームEggの演奏とクリスマスソングをみんなで歌いました。最後は愉快的なサンタさんも登場し楽しく過ごしました。このクリスマス会に寄せられた賛助金の一部は地域で福祉活動をおこなっているグループの支援のために助成金として使われ、今年も3団体を支援することが決まりました。

2015 YMCA フェスティバル 関西韓国 YMCA 創立 40 周年記念 韓国民俗芸術科公演

皆様お待たせしました！
3年ぶりのYMCAフェスティバル！
風流(フユ ブンニョ)、風物(フムル ブンムル)を愛する者たちが集うこの日この場に身を置いて、懐かしく新しい「風(바람 바람)」を受け取ってください。



- ● ● 4月26日(日)
- ● ● 場所：クレオ大阪中央
- ● ● 開演：午後5時

今後の予定 2015年3月~5月

- 【東京韓国YMCA】**
- 3/7(土) 韓国伝統楽器・舞踊教室発表会
 - 3/18(水) 韓国語講座打ち上げ
 - 3/19(木) 日本語学校卒業・修了式
 - 4/4(土) 韓国舞踊無料体験講習会
 - 4/8(水) カヤガム無料体験講習会
 - 4/13(月) 日本語学校入学・始業式
 - 4/14(火) 2014年度第4回理事会
 - 5/11(月) 第239回教界指導者朝食祈禱会
 - 5/23(土) 定期会員総会、第7回オリブ平和映画祭
- 【関西韓国YMCA】**
- 3/7(土) 第4回四季を彩る韓国料理
 - 3/13(金) 第118回YMCA教界指導者早天祈禱会
 - 4/11(土) 2014年度第4回理事会
 - 4/26(日) 韓国民俗芸術科発表会(クレオ大阪中央)
 - 5/8(金) 第119回YMCA教界指導者早天祈禱会
 - 5/30(土) 理事候補推薦委員会、第42回定期会員総会
2015年度第1回理事会



YMCA 東京日本語学校学生募集中

韓国語講座 2015年4月期募集中

【編集後記】

- 仕事に追われてバタバタしているうちにまた花粉の季節が。(オ)
- 円安ということもあり、アジアの若者がたくさん日本を訪れていますが、日本の若者もたくさん海外に出かけてほしいですね。(た)
- 家電製品をひとつずつ揃える日々のありがたさ。(白)
- 春の訪れが待ち遠しい今日この頃です。(春)

KAKEHASHI かけはし 2015 March vol.18

発行人：金秀男 発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5
TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org



『かけはし』次号は2015年6月発行予定です。

Twitter: @zainichiymca Facebook: Korean YMCA in Japan
より良い紙面つくりのために、ご意見・ご感想をお寄せください。

在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center

かけはし

故金廣照理事長を偲んで



故金廣照理事長

金廣照理事長が約9カ月の闘病生活を終え、享年65歳で天に召されてすでに3カ月が過ぎようとしています。私と金廣照理事長との出会いは二人とも血気盛んな学生時代で、時は1970年前後、70年安保、大阪万博闘争で象徴されるように、日本、在日コリアン、また韓国にとってもまさに激動の時代を、在日大韓基督教

会(KCCJ)青年会活動の同志として過ごしました。在日コリアンへの露骨な差別問題糾弾、権利権

益獲得運動、祖国韓国の民主化闘争支援等々を共に担い、気が

付けば彼は東京、私は関西と奇しくも在日本韓国YMCAに奉職、

YMCA運動を共に担う同僚になっていました。

金廣照理事長は在日本韓国YMCAから横浜YMCAに、そして

再び在日本韓国YMCA勤務退職の後、実

業家へと転進していく中、私は2000年に

YMCA総務に選任され大阪から東京に赴

任することとなり、再び濃密なお付き合い

をするようになりました。当時在日本韓国

YMCAは、ソウルYMCAの大きな支援と

犠牲で資産競売を免れたものの、事業活動

は極度の不振状態で、会館老朽化の問題

に加え莫大な借入金、未払い金も抱えて

いました。まさに祈るしかないこの苦難



1989年「ともに生きるキャンプ」にて

を乗り越えるにはと、ふと思いつき横浜に金廣照長老を訪ね、共にYMCAのビジョンを語り合う中でYMCA理事就任快諾に力を得て、総務として第一歩を踏み出すことができました。

この間、YMCA運動の基盤である会員組織の構築、事業活動の活性化と財政安定化に邁進、2006年の創立100周年記念事業を成功裏に実施できたのも、実はYMCAのスタッフとして経験を積んでいた彼の助言、全面的な協力があったからだと告白せざるを得ません。その後2011年の東日本大震災の危機的状況にある程度乗り切中、二人の暗黙の約束が見事にかなえられ、2012年6月YMCA理事長に選任され、2年任期の二期目を務めていた理事長現職での召天でした。

教会生活でも、長老として所属の横浜教会のみならず、KCCJ関東地方会、総会の重責を担い、地方会そして総会全体が発展する道筋を付けた功労者でした。私と彼と会うときは、いつでも共にKCCJとYMCAに育てられ用いられたことを感謝し、これから更に貢献しようとの思いをお互いに確認して別れるのが常でした。主を愛し、教会を愛し、そしてYMCAをこれほど愛し、忠誠を尽くす

金廣照長老に相対するたびに、頭が下がる思いで、同じ長老としてまさに模範とすべき存在であったと言えます。

私たち一同も、主にあつて再び会うことのできる望みを持ちつつ、故人の遺志を受け継ぎ、ただただ神を敬い、この世に神の国を建設し、広げていく器として用いてくださいと共に祈りをあわせたいと願うものです。

聖書に聴く 第18回

金迅野 牧師(キム・シンヤ/在日大韓基督教横須賀教会)

ルカによる福音書9:10-17

夜が近づいたので、弟子たちは、群衆に宿と食べ物とをさがさせることを発想します。きわめて現実的な発想と言えますが、この弟子たちの行動に対してイエスは、「あなたがたが、彼らに食べ物を与えなさい」と言います。当然、弟子たちは「無理だ」と反論します。手元にはパンが五つと魚二匹しかないのですから。私たちの常識も「無理だ」と言うでしょう。しかし、イエスは、食事の準備をするように伝え、そして祈り、食べ物を「裂きました。祈り(言葉)と裂く(行為)は、最後の晩餐に通じるものでしょう。

最後の晩餐の意味を弟子たちが知らなかったように、この五千人の食事の意味を、当時、誰も理解しえなかったと考えられます。イエスの食事は、常識をはるかに超越した「いのちの分かち合い」でした。「祈り(言葉)と「裂く(分かち合う行為)の全体が、復活の命を「分け与える」、主の究極の愛の行為の予告でした。「わたしの記念として」おこなわれた晩餐によって、その命をいただいた人は、もはや、「五千人」という規模を超えて全世界に広まっています。

イエスが与えたふしぎな食べ物、弟子たちによって、群衆に分け与えられました。この「配膳」「給仕」という行為は、実は、大事な弟子の役割です。今日、私たちが教会で「執事」と言っている言葉は、「仕える」「給仕する」という言葉を語源にもっています。配膳すること、給仕すること、つまり奉仕は、単に「食事の準備をする」ということではなくて、イエスからいただいた「いのち」を他者と分かち合う行為です。イエスとともに、「いのち」を分かち合う行為です。

「そんなことはできないよ」「無理です」かつての弟子たちがそうであったような状態から、「やってみよう」という気持ちにあふれることが私たちにもあります。この気持ちのわき出る源も、イエスが分けてくださった「いのち」に違いありません。すべての奉仕は、イエスの「いのち」に関わりを持つものです。「パン」のために必死にならなくてはならない人が増える世の中に、「いのち」が何かの駆け引きの材料に使われてしまう世の中に、イエスの言葉は何を語りかけているのでしょうか。イエスの分けてくださった「いのち」にあずかって、互いに「癒し」、互いに「仕え」、互いに「いのち」を分かちあえる、わたしたちでありたいと思います。

2014年12月～2015年2月のプログラム

東京韓国YMCAの活動

李清吉新理事長就任



金廣照理事長の突然の逝去により理事長が不在となっていました。2月8日に開催された在日本韓国YMCA 理事会において、李清吉理事（東京聖書教会元老牧師、東京聖市化運動本部代表会長、国際聖書研究院院長）が新理事長に選出されました。

李清吉理事長は、1978年に宣教師として来日して以来、東京福音教会、東京聖書教会で長く働かれ、日本宣教を志す後進の育成にも力を注いでこられました。YMCAでは、在日本韓国YMCA 副理事長、東京韓国YMCA 代表理事、教会協力委員長等を歴任されています。

クリスマスの夕べ開催



12月14日の夕方、スペースワイにおいて恒例の「YMCA クリスマスの夕べ」が開催され、関東地方に所在する多くの韓国教会の信徒の皆さんと一緒に、楽しくクリスマスをお祝いする時間を過ごしました。

特別演奏、賛美、許伯基牧師によるクリスマスメッセージによって、クリスマスの喜びと感謝の思いを新たにした後、今年のメインゲストであるZINO PARK 宣教師をお迎えしてライブコンサートが行われました。圧倒的な声量による素晴らしい歌と楽しいお話に、会場はすっかり魅了されました。おしまいは恒例のサンタさんも登場し、子どもたちはプレゼントをもらって大いに喜んでいました。

今年も会場では、ペイトサフルYMCA（ベツレヘム）で製作されたオリブクラフトの販売が行われ、多くの皆さんにお買い求めいただきました。オリブクラフトの売上は、私たちが交流を続けている東エルサレムYMCA の子どもプログラム支援のために用いさせていただきます。

連載 東京の中の韓国を巡る【第10回・～金玉均～】

才門勇介(「かけはし」編集委員)



金玉均

第10回は金玉均（キム・オッキョン、1851-94）について取り上げてみたいと思います。

日本では、ほとんど忘れられています。朝鮮の文明開化を夢見て革命を起こした親日派と呼ばれる朝鮮独立運動家です。

彼は開化思想を持ち、朝鮮を清朝から独立・近代化させようとした。模範は日本の明治維新で、日本もこの考えを受け入れ、1882年には日本へ留学・視察をしています。日本は明治維新後で文明開化の真只中で、福沢諭吉や大隈重信の支援を受け福沢諭吉の元で勉学にはげんだそうです。

1882年朝鮮での開明派の動きが封殺されると（壬午事変）、危機感を募らせ1884年33歳の時、封建社会制度から資本社会制度へ、朝鮮半島を富国強国にする夢を抱き彼は政権打倒のクーデターを起こしました。（甲申事変）。

結局、事件は清の介入により失敗、わずか3日間の政権となり、彼は日本へ亡命し、その後、上海で暗殺されることとなります。

彼の歴史的評価は様々です。「タイミングを見誤った」「無謀だった」「日本にだまされた」という評価まであります。

ただ、彼は国を憂い、自ら学び、立ち上がったことは確かです。独立の気力を持って政府と闘い、3日とはいえ新政権を立ち上げた。

この思い、熱はどの世の中にも必要なものでしょう。

彼の葬儀は日本でも盛大に行われ、現在も本郷の真浄寺、青山の外人墓地にお墓があります。今でも韓国人留学生がよく訪れるとのこと。

その墓石にはこうあります。

「嗚呼、抱非常之才、遇非常之時、無非常之功、有非常之死……」

(ああ、非常の才を抱き、非常の時に遭い、(それにもかかわらず) 非常の功無く、非常の死あり。)



青山墓地にある金玉均の墓所

2・8独立宣言第96周年記念式



日本による朝鮮植民地統治時代において最大の民族独立運動であった3.1 独立運動の導火線となったことで知られる、東京留学生による「2・8独立宣言」が東京朝鮮基督教青年会（現在の在日本韓国YMCA）会館で宣布された歴史を思い起こし、正義と平和の実現のために命をかけて立ち上がった当時の青年たちの思いを心に刻みなおすために、YMCAでは韓国政府（国家報勲処）の支援を受け、毎年2月に「2・8独立宣言記念式」を開催しています。宣言宣布から96年を迎えた今年の記念式も、2月7日に、朴勝椿国家報勲処長（長官）、柳興洙駐日全権大使、朴維徹光復会長、2月8日を国家の法定指定日にするための取り組みを行っている黄仁子国会議員等、内外の来賓が出席された中で盛大に開催されました。

今年は、日本からの解放70周年、韓日国交正常化50年という節目の年ということもあり、例年以上に注目を集め、会場のスペースワイホールから溢れるほどの大勢の出席者が集まり、またKBS、MBC、YTN等のニュースでも式典の様子が大きく報道されました。

韓日の外交関係がたいへん冷え切った中での開催となりましたが、韓日関係にとって節目となるこの年に、過去の歴史を直視した上で両国関係をよい方向へと好転させたいという多くの出席者の強い思いが感じられる式典となりました。

(写真上) 記念辞を述べる朴勝椿国家報勲処長

(写真左) 東京韓国学校の生徒たちと保護者による合唱が今年も記念式に花を添えました。



日韓のヤングマン集まれ! 日韓国際交流会を開催



1月30日の夜、都内の大学や日本語学校で学ぶ韓国人留学生と、韓国に関心を持つ日本人および台湾人の学生・青年、合計20名が集まり、日韓国際交流会を開催しました。今回のプログラムの企画および進行は、YMCAの大学生ユーススタッフが全て担当してくれました。グループごとに分かれ、自己紹介タイムで仲良くなった後は、対抗戦のゲーム大会で大いに盛り上がりました。外は雪が降るたいへん寒い日でしたが、YMCAの中は若い熱気が満ちあふれました。

韓国側の参加者で特に日本語学校に通う学生たちは、普段日本の若い人たちと交流する機会がほとんどないようで、今回の交流会を通じ日本人の友だちを作ることができて、とてもうれしかったと話してくれました。日本側の参加者からも、勉強している韓国語を使って韓国人と話すことができ楽しかったという声も聞かれました。

日韓の青年交流会は久しぶりの開催でしたが、参加者からは今後の定期的な開催を望む声が多く寄せられています。皆さんの協力により、ぜひ定例化できることを期待しています。

関西韓国YMCAの活動

弘益大学冬季インターンシップ研修



夏に続いて1月8日から2月5日までの4週間、韓国の弘益大学商経学部の3・4年生13名が研修のため来日し、午前中の日本語研修、午後からの現場実習、企業・自治体訪問、日本・多文化理解、そして大学生交流など多様なプログラムをおこないました。

開成教育セミナーで知られる成学社、モンシェールをはじめ、ISO、ベンチャー、非営利団体の運営、堺市国際課（観光・産業）など多くの起業・団体、個人のご協力をいただきました。また民族学級訪問、ヘイトスピーチ、講演会など今の日本社会を知る機会を得ました。

宿舎はシェアハウスなど4カ所に分散し、生活面でも日本人や外国人居住者と日本語での交わりの時間をもち充実した日々を過ごしました。

金弘明（キム・ホンミョン）

南北コリアと日本のともだち展・大阪展



12月12日～14日「第4回南北コリアと日本のともだち展・大阪展」(事務局YMCA)が大阪国際交流センターで開催され、439名の来場者を迎えました。「わたしのまちにおいてよ」というテーマで韓国・北朝鮮・中国、そして大阪の公立小

学校、建国、大阪朝鮮第四初級のおともだちの242点の絵が展示されました。来場したたくさんのおともだちが絵を描いてくれたおともだちに感想や手紙を書いてくれました。13日(土)のこどもワークショップでは「これが大阪!」と思うものを粘土で作りました。それをあわせると素敵な大阪の街になりました。大人ワークショップでは全国で14年目となる「ともだち展」を振り返る座談会を開催しました。

金弘明（キム・ホンミョン）